ドクター・ナース・介護ウェーブ
医療・介護現場の改善をアピール

11月8日、名古屋市中区の矢場町周辺で「秋のドクター・ナース・介護ウェーブ」集会が開催され、県内から医療・介護従事者43名が集まりました。尾張健友会からは6名と労組3名が参加し、意思統一集会と栄パレード、若宮広場での署名行動に取り組みました。

訴え続けます！

千秋病院デイケア
介護福祉士　明石 雅之

この集会は「医師、看護師、介護士の大幅増員・処遇改善、医療・介護など社会保障制度を求める社会的アピール」をスローガンに掲げ行われました。集会は若宮広場で始まり、現場で働く職員の現状を聞くことができました。

その後、矢場町、栄付近でデモ行進を行ないました。行進中は、周囲の参加者の声に押され、自然と声を出すことができました。歩行者から手を振られ、応援の声をかけられることもあり、耳を傾ける方がいることを認識しました。

名古屋・栄でのパレード

行進後は、若宮広場で医療現場、介護現場の現状の改善を求める署名活動も行なわれました。署名をしてくれた方からは温かい声もいただき、この活動を行なうことも必要だと思いました。今後も国に対し、改善を訴え続けます。

現状を知ってほしい

B2病棟
看護師　山内　渚

どこの病院も介護施設も人員が不足し、休憩が取れなかったり、残業をしたりと苦しんでいる状況がよく分かりました。パレードに手を振ってくださるのは高齢の方が多く、若い方にも現状を知ってもらえる伝え方が必要だと感じました。「ぼくは膝が悪くてずっと病院にお世話になっています」など声をかけてくれる方もいました。街中で声を出すことでいろいろ知ってもらえるのはよいことだと思います。

普段は会えない人と

A2病棟
看護師　倉本 紗彩

普段、医療や介護の現場に興味を持っている人と関わる機会はほとんどありません。集会に参加し、署名活動を通して応援や感謝の言葉を直接告げられました。多くの人が集まる場所での活動で、普段は出会うことのない人とコミュニケーションを取ることに意義を感じました。

声をかけていきたい

特別養護老人ホームちあき
介護職　島添 聖己

参加して感じたのは、署名に協力する人が少なかったことです。現在の医療福祉現場の崩壊の危機について、まちの人はあまり興味がないと感じました。大軍拡・大増税・改憲でなく、いのちと健康を守る医師・看護師・介護職員の増員と処遇改善、社会保障の拡充を求めることで、暮らしに直結できるとよいと思います。一人でも多くの署名を集めることができるよう、声をかけていきたいです。

無関係な人はいない

萩原小規模多機能ホームちあき
介護職　小林 加奈

強く感じたのは、一般の方々には看護や介護が無関係な話のようだったことです。一人ひとりに関係のある話だと捉えてもらえないと、現場を知っていただくのは難しいです。今は関係のない方も、これから患者や利用者、利用者家族として関係する可能性があることなので、多くの方に少しずつでも知ってもらえればと感じました。

署名は交流の機会に

本部 社会活動部
中井 智佳子

パレードでは、過去に参加した時よりも街頭からカメラを向けられることが多く、医療・介護が危機的状況にあることを理解しているように感じました。署名行動は、なかなか書いてもらえず苦戦しましたが、医療従事者と思われる方は足を止めてくださり、交流する機会になりました。

国民署名
地域住民の医療を受ける権利を保障するために
医療機関の維持存続への支援を求める請願署名
職員が地域訪問「病院がなくなったら困る…」の声多数

11月5～7日の3日間、職員など延べ12名が参加し、千秋町塩尻地域の皆さんに「国民署名」を呼びかけました。訪問件数は1日当たり平均25・3件、面会件数は平均9・3件、面会時の署名受け入れ率93・3％で、署名集約数は35筆でした。参加した職員の感想を紹介します。

地域の病院を守ろう

放射線科　篠田 彩花

全国の約7割の病院が赤字という危機的状況の中、国民署名に取り組みました。歩いて行ける距離に病院がなくなると受診が大変になるため、身近な病院を守る活動であることを説明すると、多くの方が快く署名してくださいました。

行動の大切さを実感

放射線科　公文 眞由子

自治体病院の赤字経営において、自治体が赤字を補てんしているのが現状だそうです。そういう中でも、地域住民のための医療機関としてぎりぎりの状態で医療を提供している状況を知りました。

そんな現状を止めたいと初めて地域訪問に参加し、多くの方に快く署名に賛同していただけました。「親が入院してお世話になった」「健康診断やワクチン接種で毎年利用している」などの声を聞きました。署名を通じて多くの方が同じ思いであると知り、問題解決に向けて行動する大切さを実感しました。

長期的な診療体制が整えられ、住み慣れた地域で長く過ごせるような未来になることを願っています。

利用者の声を聞いて

放射線科　片山 佐和子

初めての地域訪問でした。病院でお見かけする患者さんの日常の顔を知ることができました。

今回は署名活動が主でしたが、病院だけでなく、利用者さんも金銭的な厳しさを感じつつ病院に通っている現状を聞きました。いのちを守るためには、病院維持のためにも、利用者さんの負担軽減のためにも、国の財政支援の必要性を強く感じました。

署名の依頼を快く聞いてくださる姿に、地域の方の気持ちの温かさや、このような信頼関係を構築してきた千秋病院は素敵だなと感じました。

一人でも多くの人に

総務課　熊崎 育代

伺ったお宅では、千秋病院に2世代で通院されている方、老健や特養に入所していた家族がいる方にお会いし、「千秋病院があるから安心」と言葉をいただきました。

署名をお願いすると、「病院がそんな状況だとは知らなかった」「ニュースでは目にしていたので、ぜひ署名したい」と快く応じてくださいました。地域の方に千秋病院を知っていただけていることを実感したとともに、一人でも多くの方に署名内容を周知していくことの重要性を改めて感じました。

ピアニストと道化師による
クリスマスコンサート

12月4日、ケアハウス地域交流スペースでクリスマスコンサートを開催しました。ピアニストの演奏とクラウン（道化師）の愉快で楽しいパフォーマンスに期待して、たくさんの方にお越しいただきました。

笑いあり、涙ありの催しでした

冒頭からクラウンのもっきーさんによる大道芸や風船芸、会場全体を巻き込んだチャンバラ芸。ワクワクドキドキが止まらず、笑顔があふれていました。次にピアニストの磯村さんが、自身が初めて覚えた曲として「川の流れのように」を弾くと、心に染みわたるピアノの音色に涙を浮かべる方もみえました。

最後は「見上げてごらん夜の星を」の演奏に合わせ、もっきーさんが小さな風船を会場中に配り、星に見立てた風船を揺らして夜空を演出。あっという間の45分間。初めての企画でしたが、皆さんの満足した笑顔が印象的でした。ご縁をいただけた磯村晶子さんともっきーさんに感謝します。

看護部長　田中 奈美